

2024年度

K 3—1

国 語

2月25日(日)

人文社会科学部 (経済学科)

15 : 20 ~ 16 : 10

【前期日程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、6ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

<ul style="list-style-type: none">・書き出しは、一マスあけない。・句読点はそれぞれ一マスとする。・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子は、必ず持ち帰りなさい。

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(配点六〇%)

ソクラテスの不知

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表
しません。

(納富信留「知らないということ ソクラテスの哲学を究める」)

(注) ○プラトン——ソクラテスの弟子でアリストテレスの師。ソクラテスの死後、対話篇を執筆し、ソクラテスの思想を伝えた。

○ソフィスト——古代ギリシアで徳を教えたとされた弁論家・教育者。

○アゴラー——古代ギリシアの都市国家で集会を行った広場。

○アポリア——問題が解決できない状態のこと。哲学的な難問。

問一 傍線部(ア)のカタカナの部分に漢字に改めなさい。

問二 傍線部A「私たちが日常で軽く発する」知る、知らない」という言葉とはまったく異なる」とあるが、ソクラテスの「不知」の特徴を説明しなさい。

問三 傍線部B「この点をきちんと理解しないと、彼に対して不当な非難が生じる」とあるが、筆者はソクラテスについて、どのような点を理解する必要があると述べているか、説明しなさい。

問四 傍線部C「強い条件」とあるが、この内容について述べている箇所を本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

問五 傍線部D「反日常的な態度」とあるが、なぜ「知らない」と認めることが「反日常」といえるのか。本文の内容に即して簡潔に説明しなさい。

問六 筆者はソクラテスを例に、「知らない」と認めることの困難と重要性を説いている。自分が知っていると思いついていただけだと気付いた事例を挙げながら、「知る」ということについて、あなたの意見や考えを述べなさい。三〇〇字以内でまとめなさい。

正解・解答例

教科・科目名	国語（前期日程試験：令和6年度） 1 / 1	問題番号	K2-1 K3-1
対象学部・ 学科(課程)等	人文社会科学部（法学科、経済学科）		
<p style="text-align: center;"> 1 60% 採点時の配点 120点 </p>	<p>問1 (ア) 自認 (イ) 被る (ウ) 射程 (エ) 看過 (オ) 軌跡</p> <p>問2 古代ギリシア人が重視した人間の倫理や価値をめぐる「徳」のみを対象にするとともに、それらについて何も知らないのではなく、「それが何であるか」という最重要な点だけを「知らない」というのがソクラテスの「不知」である。</p> <p>問3 ソクラテスは、あらゆる角度から検討したうえで「知らない」という認識に至っていたが、それでもなお、正しい考えや答えなどないということを前提にはせず、今度こそ納得のいく答えに近づくことができるかもしれないと期待して対話したという点。</p> <p>問4 真実の命題を持つことの原因や根拠を説明できること（24字） （部分点 真実であること、根拠を説明する必要があること（22字））</p> <p>問5 おおよそ間違っていないと思っていることは「知っている」と見なして過ごす日常生活は、厳密な「知る」の定義を適用すると立ち行かなくなるから。</p> <p>問6（解答例） 皆から敬遠されがちなクラスメイトがいた。ふとしたきっかけで、彼と話すようになり、複雑な家庭事情や彼の心の内を知った。学校ではとっつきにくく人付き合いもよくない印象であった彼と、改めて知った彼は全く異なっていた。私は勝手に決めつけていただけで、決して彼のことを知っているわけではなかったのだ。その時改めて人を知るということは難しいと思った。先入観や偏見を持たずに人と接することは難しいし、持っているのは悪いことではない。ただ、それにとらわれず、自分の「知っている」を疑うことが重要だ。人を知ること、自分自身が「知らない」という前提に立つことで初めて可能になるのではないか。（286字）</p>		

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	国語 (前期日程試験：令和6年度) 1 / 1	問題番号	K2-1 K3-1
対象学部・ 学科(課程)等	人文社会科学部 (法学科、経済学科)		
出題のねらい	① 現代的な評論文を読んで、基礎的な知識、文脈を把握する読解力、論理的な思考力と基礎的表現力をみる。		
採点基準 (点数は200点 満点の場合)	① 配点60% (120点) 問1 20点 (4点×5) 問2 15点 問3 15点 問4 10点 問5 20点 問6 40点		